いやさか NEWS

vol.6
January 29 2016

●発行：日本ボーイスカウト東京都連盟　日野第2団　●編集者：中村俊郎　●住所：東京都日野市程久保4ー7ー14　●ホームページ：http://www.hino2.tokyo/

飛び出せ！2016年!!

限りなく広がる未来に向かって

「さあ、目を上げて、あなたがいる場所から東西南北を見渡しなさい。見える限りの地をすべて、わたしは永久にあなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫を大地の砂粒のようにする。大地の砂粒が数えきれないように、あなたの子孫も数えきれないであろう。さあ、この地を縦横に歩き回るがよい。わたしはそれをあなたに与える。」

これは聖書の中で、神様がアブラハムという旅人に語った言葉です。

神様はアブラハムに見渡す限りの地を与えました。それは権利証とか誰々の所有物とかいうケチな意味ではなく生きる場や可能性が限りなく広がっていることを示したという意味だと思います。そして、聖書によれば、私たちみんながアブラハムの子孫です。それは血縁ではなく、神様との関係を受け継ぐ子孫です。だからこの言葉は、私たちへの言葉でもあります。

さあ、目をあげて回りを見渡しましょう。今年も私たちの活動の場は果てしなく広がっているでしょう。

平成28年1月
カトリック高幡教会
主任司祭　高木健次

クリスマス会

2015年12月20日、毎年恒例のボーイスカウト・ガールスカウト合同クリスマス会が行われました。朝一番に、カブ隊がツリーに飾り付けをしてくれました。これで広場は一気にクリスマス色。

午前は幼稚園講堂でクリスマスソングを歌いつつ、各隊が順にスタンツを発表します。

息ぴったりの合唱や演奏、素敵な衣装の聖劇に、ちょっとユニークな出し物まで、みんながしっかり準備をしてきたことが伝わってきましに。途中でサンタクロースが乱入すると、スカウトは大盛り上がり。その後のキャンドルサービスでは一転して静かな気持ちでお祈りできました。さすがはスカウトです。

お昼にはグループに分かれ、昼食です。団員さんとお母さん達が作ってくれたシチューとケーキで身も心もぽかぽか。

そして最後には、待ちに待ったプレゼント交換。お話をしてくれた高木神父様も大きな輪に加わり、みんなで歌に合わせてプレゼントを回します。スカウト達は、受け取ったプレゼントとこの日の思い出を胸に、笑顔でクリスマス会を終えました。

活動便り
かつどうだより

新年事始めのお餅つき

今年も楽しいお餅つきが一年の事始めです。ボーイスカウト日野第2団とガールスカウト東京第77団が合同で開催しています。ゲストで横田基地のガールスカウトとその家族の方々も例年通り来て下さいました。また、高幡教会の方々もつきたてのお餅をご賞味に来てくださいました。

先ずは、写真を紹介しながらその雰囲気をお伝えしたいと思います。

ボーイ、ガール、横田基地の方々で「みんなで棒引き合戦」です。皆の交流を深めるためにはアイス・ブレークが必要ですが、これはかなり熱くなっていますね。裏山でのゲームです。（写真1↓）

また、日本の伝統の遊びを横田基地のガールスカウトと一緒に楽しんでいます。なかなか私たちも普段遊ばなくなった「けん玉」です。「これどうやるの？」。言葉が通じなくても教えちゃいます。（写真2↓）

そして、お餅つきも皆でついてみました。なかなか杵が重いです。おいしくつけるかな？！（写真3→）

いただきまーす。お母さん方があんこ、きなこ、大根おろし等々を作ってきてくれました。つきたてのお餅で美味しそうです。（写真4↓）

そして、言葉が通じなくても皆お友達になりました。お別れの時間が近づきました。「友情の輪」で「楽しかったことに感謝」と「また会おうね」の約束をして解散です。（写真5↓）

今年も元気です。レッツゴー！

スカウト活動は「友情にあつい」「親切である」「感謝の心をもつ」等の「おきて」があります。このことが実感できるお餅つきでした。

お父さん方は前の日からもち米を洗い、かまどを作り、まきを割り、当日は朝7時には準備を開始しています。教会の方も駐車場の対応で朝早くから来てくださいます。

お母さん方もそれぞれあんこ、きなこ等を準備してくれました。

スカウト達も笑顔で元気にスカウト広場に集まってきます。横田基地の方々も楽しんでくれました。

沢山の小さな友情、親切が、大きな感謝の日になりました。そしてスカウト活動は世界の活動です。海外の方々との友情の輪を日本の楽しい昔ながらの遊びを通じて経験出来なした。これも大きな感謝です。

ボーイ隊　スキーキャンプ

感謝の気持ちを忘れずに
上級班　　上田晟生

僕は今回、初めてリーダー会議なるものに立ち入ることを許されました。この会議では上級班長、ＲＳ（ローバースカウトさん）の反省と隊運営全体の総括が行われました。反省の時には、リーダーの方々の評価や指摘があり、僕はそれを元に翌日の活動での注意点を考え、実行します。これは初級スカウトも班長であってもやらなくてはならないことで、先輩やリーダーに言われたことを参考に自分の行動に反映させるという、あたりまえなことで、ボーイスカウトなら必ずやることです。だから、これはいわば「いつもどおり」なのです。しかし、リーダー会議ではいつもと違うことがありました。それは、討論をすることです。その日の隊運営に関しての問題点を確認し、改善点を出し合い、活動の内容をより良くしようと話し合うのです。今までは、先輩やリーダーにある程度、解、答えを示されていました。しかし、リーダー会議では、答えがあるか分からないことに対して、解を導き出すという世界がありました。これが「大人の世界」であると、僕はまずそうおもいました。スカウトは何の気もなく参加しているキャンプの裏に、こんな苦労があるのかと、驚きました。もちろん全く知らなかったわけではありません。イベントを運営する側の苦労を全く考えていなかったわけではありません。しかし、リーダーたちがここまでスカウト一人一人を見ていて、本気の議論をしていたなんてことは、僕は知りませんでした。今までスカウトとして何も知らずに活動していた時、自分を支えてくれたリーダーたちに、もう一度感謝しなくてはならないと思いました。そして、今回のスキーキャンプに関わった全ての人に最大級の感謝を。

班長とは
イーグル班　　池田侑登

２０１５年の最後の三日間、僕たちのスキーキャンプが行われた。

僕はイーグル班の班長を務めた。元より僕は班長（に限らず、人を索引していくリーダー職）に向いてないと思っている。おそらく自分に自信がないことが原因なのだろうが、他人や集団を一人で引っ張っていくことが得意ではないと思う。

今回のスキーキャンプではあまり大きな問題もなしに班を動かすことが出来た。しかし、「班を動かす」と書いたが、自分で班を「動かしていた」実感は正直なところない。即ち、今回のキャンプでは班員それぞれが支えあうことで班が保たれていた、といった状態であったと思う。それが「支えあうことができた」と見れば悪いことではないのであろうが、しかしそれは同時に自分が班の「長」として十分に機能していないともいえるのではないかということである。

もちろん、そういう班長のあり方がまちがっているとはいえないのかもしれない。ところが、僕が今までに見てきた、班長を務めてきた諸先輩方にはそのような方は見たことがなかったし、班長が一人で索引する能力が求められる場というのはどこかにあると感じるのである。つまりこの能力の欠如は班長として致命的なのではないかということだ。

以上のようなことに気を付けただけでも、今回のスキーキャンプに参加した意義があったと思う。そのような場を作って下さった方々に感謝する。

GB として
イーグル班　　熊田舜士

スキーキャンプは、新な班体制に移行してから初めての大きなイベントだった。

つまり僕たちがグリーンバーになってから初めての大きなイベントでもあるということだ。今回が初めてなので、多くの不手際があった。

また、グリーバー会議でも自分が思わなかったような点で注意されるなど、まだまだ自分達の未熟さを痛感させられた。

次のキャンプはもう少し考えて行動するようにしたい。人数が少ないと難しいが、班長次長がしっかりと仕事をわりふって行けばより効率良くキャンプ生活を送ることが出来ると思う。

その一方スキーの面では今までと比べて格段に上達したと思う。ただ、今年は例年に比べ雪が少なく、滑りにくかった。

来年のスキーキャンプに参加するのは、上級班長としてなのか、各班の班長次長としてなのかはわからないが、この経験を生かしたい。

スキー教室
イーグル班　　　吉田蓮

西暦２０１５年１２月２９日火曜日から西暦２０１５年１２月３１日のボーイスカウト東京連盟日野二団ボーイスカウト隊のスキーキャンプにイーグル班の班員として同じくイーグル班の班長池田侑登君と班員の須﨑公太郎君と班員の伊藤正太郎君と次長の熊田舜士君と、ホワイトベアー班の班長久野和哉君と班員の森山祐貴君と一緒に参加しました。（実際に参加したのは西暦２０１５年１２月２９日火曜日から西暦２０１５年１２月３０日水曜日までの２日間しか参加していません。）

しかし、今回は雪がほとんど降っておらず、そこら中がアイスバーンだらけでした。そのため、あまりうまくすべれませんでした。

しかし、それでもまあまあスキーが上達したと思います。

全体的に楽しかったです。

年末日記
イーグル班　伊藤正太郎

今年は、昨年と違い、スキーキャンプが大晦日と被る、ということがありました。ボーイスカウト日野二団ではよくあることだそうですが、ぼくは珍しい事に感じています。

では、始めます。今年もまた、ぼくはスキーキャンプに参加しました。場所は、長野県松本市乗鞍高原で、日数は、１２月の２９日から、大晦日である、３１日までの２泊３日です。

その三日間で、思い出に残った事をこのいやさかに書き記しておきます。

一日目のスキーでは、昨年に行ったスキーの復習をしました。始めは、こけてばっかりでしたが、少しばかりやると、昨年やったスキーを思い出して、滑るのが慣れていきました。夜は、五人でトランプをしました。ちょっと負けっぱなしでしたが、自分より年上の人しかいなかった空間に馴染めました。

二日目のスキーでは、シュテム・ターン（S字になるように斜めに滑って曲がるという事を繰り返しながら滑る方法）の練習をしました。これは、案外、上手くいっていたので良かったです。

この日、夜のプロジェクトで、今回のスキーキャンプの反省会をしました。この反省会は、既に体験していましたが、日数の割合からか早いなぁと感じました。

三日目のスキーでは、年上のＫＫ君と一緒に滑りました。先日と同じでシュテム・ターンの練習に取り掛かりました。カーブする時にストックを地面につく要素が増え、難行しましたが最後には、まともに滑れました。

今回のスキーキャンプは、日数が少なくてもそれなりの事は、学習できたと思っています。技能章だって、取れなくても、ボーイスカウトでは、まだ三回ものチャンスがあります。

それに、思い出も沢山出来たので、スキーキャンプには、これからもまた行きたいです。

過去とこの３日間の比較・来年への想い
イーグル班　須崎公太郎

僕は四回のボーイスカウトスキーキャンプを終えて、さまざまな技術や宿内での生活習慣を学び身に付けることが出来た。今回は一人を除き残るメンバーは全員同級生なので、とてもやりやすかった。しかし、今年の長野県松本市には例年より雪が少ないので氷が多く、さらに木がうもれてないから滑りにくかった。

今年のスキーはパラレルターンの上達が出来てよかった。転んでしまったけど去年より転倒回数が少なかった。滑れるコースは限られたが精一杯気持ちよく滑れて楽しかった。

宿では去年よりたくさんご飯を食べれたし、部屋では静かに過ごせたので成長したことを実感した。

スキーキャンプは年の最後を締める活動であり新年へつなぐ活動だ。それを今年一番楽しく終われてよかった。

来年はもっと雪が積もるはずなので、もっと色々なコースを滑りたい。

心の傷
シロクマ班　久野和哉

私は死と感じた。

２０１５年の冬、我々ボーイ隊はスキーへ行くことになった。前日私の心は石のごとく重く行く気になれなかった。せっかくの冬休みが、アニメが、マンガが、などやりたいことを思いながら次の日がきた。朝はまだ暗くまぶたが上らなかったが、しぶしぶ起き上がりカトリック教会へ行った。

バスに乗り長野県松本市へ行った。着くと雪はあるものの全体的に見ても少ない、と言えるものだった。心の中でよろこびが絶えなかった。

開会式が終わりスキーが始まった。まずまずだった。

二日目、三つのチームへ分かれてスキー開始。私は真ん中のクラスのチームであった。

私は気持ちが高ぶっていたのだろう。スピードが出すぎて止まれなくなってしまった。心の中で二つ思った。一つは年内に二人が骨折して三人目になってしまうということ、もう一つはクッションがあれば折れないのではないかという思い。この二つから一番クッションに近いものと考え、雪と頭でだされてしまった。そして雪のたまっている所へ突っ込んで起き上がることがしばらくできなかった。

なぜか血の味がしてしまってびっくりしてしまった、が特に何もなく心を落ち着かせた。その後、ゆっくりにしかすべれなくなってしまった。（とてもショック）

三日目一番低いチームになった。少し残念だが良い点もあった。ゆっくりでいいということです。けれど二日目にやってしまったことは今でも心に残る痛手です。

私をスキーにつれてって
シロクマ班　森山裕貴

僕は運動が大嫌いだ。スポーツの中で、唯一できるのがスキーである。だから、なんとなくスキーは好きだった。

１２月２９日、僕はボーイのスキーキャンプに行った。このスキーキャンプで一番感じたのは、僕達の責任感の無さだった。始めに書いたように僕はスキーが好きなので、ゲレンデを滑っているときは、楽しむことしか考えていなかった。しかし、その楽しいムードのまま部屋にいた時、プログラムの時間に集合するのが遅れた。そのあと、その日のまとめで、なぜそんなことがおきてしまったのかを考えた。答えは簡単だ。時計を見ていなかった。こんなあたりまえのことができないのは、実力や技術の問題ではなく、意識の問題だったと思う。やはり責任感が無かった。

それからも、一回か二回、遅れることがあった。一度言われたことができないのも、責任感が無いからだろう。

恋をすると世界が変わるという言葉がある。それと同じように意識すれば世界が変わるのではないだろうか。このキャンプでは責任感を持つことができなかったが、気づけたことも進歩だと思う。

このキャンプを通して、僕が思ったことはそれだ。次の活動から、意識したい。

日本カトリックスカウト協議会（JCCS）主催のキャンポリー（御殿場）に参加しよう

カトリック教会で活動しているボーイスカウト、ガールスカウトが４年に一度皆で集まりキャンポリーを開催しています。毎回合わせて 1,000 名以上のスカウトと指導者が参加しています。また、海外からも韓国、マカオ、フィリピン、タイなどからも参加してくれています。今回もアジアのカトリックスカウトに案内を行っています。

さて、日野第２団でも毎回参加しています。前回は富山県の立山の青少年自然の家で４年前に開催され、皆で参加しました。立山連峰の美しい景色に感動しました。

今回は、次の通り「国立中央青少年交流の家（静岡県御殿場市）」で開催されます。富士山のふもとです。是非、皆で参加しましょう。

――――――――――――（募集要項の一部です）――――――――――――

１．開催期間 2016 年（平成 28 年）８月 12 日（金）～ 16 日（火）４泊５日
（本部スタッフは８月 11 日（木）13 時全体会議集合）

２．会場国立中央青少年交流の家
住所：静岡県御殿場市中畑 2092-1
募集の規模野営約 450 名、舎営約 500 名、海外 (野営) 約 50 名

３．本大会の特徴

〇富士山
当施設からくっきり見える富士山は、美しい！の一言に尽きます。富士山は静岡県と山梨県にまたがってそびえており、静岡県から眺める富士山は表富士と言われています。いにしえから、人々は絵画や歌や物語に富士山の美しさを様々に表現してきました。
富士山そして周辺一帯は、自然の宝庫として注目され、一年中アウトドアスポーツや温泉、自然景観を楽しむ人々で賑わいます。
もちろん富士登山の人気も年々上昇中。遠くから眺めるもよし、一歩一歩登ってみるもよし、伝説や名所旧跡を辿るもよし。
大会期間中、朝、昼、夕、夜の富士山を楽しみながら創造主に思いを巡らせてみましょう。

〇国立中央青少年交流の家－世界平和と日本文化の発展を願ってー
当施設は現天皇陛下御成婚記念事業の一つとして昭和 34 年に開設された我が国最初の国立青少年教育施設です。
それまで米軍施設があった当地が日本に返却されることになり、この時御殿場市に住み米軍当局と地元民との交流に尽力されていた根上ツナさんが「清浄と平和を象徴している美しい富士山の下に、世界平和を青年に訴える場として国際的文化センターをつくることが私たちの願いです」と声をあげました。その思いが市長、知事そして岸総理大臣を動かし、誕生したのです。
私達もその思いにならいましょう。

〇国際大会
本大会は、JCCS が 1999 年に ICCS（国際カトリックスカウト協議会）に加盟してから４回目の国際大会です。

〇編成
団・隊単位での編成を原則とします。団・隊キャンプの集合体とお考えください。
＊他団と合同で参加する、現地でのプログラム展開を他団と合同で行うことを予定されているなどの場合には申込書に、その旨をお書きください。

〇プログラム
全体プログラム（開会式・主日ミサ・交流会・ふじフェスティバル・閉会式）以外は大会のプログラム例を参考に各団・各隊で自分達の活動を実施して下さい。

〇ユースセンター
ローバースカウト、ベンチャースカウト、レンジャースカウトはユースセンターに入ることができます。
ユースセンターでは独自のプログラムの展開と奉仕活動を行います。

〇宿泊と食事
ＢＳ以上のボーイスカウト、Jr 以上のガールスカウトは野営（野外炊事を含む）を原則とします。
ボーイスカウトのＣＳ、ガールスカウトのＢｒ、ユースセンター及び本部要員は舎営で、食事は食堂を利用します。
参加者の食事は８月 12 日夕食～ 16 日朝食（本部員は 11 日夕食～）を大会が用意します。

〇宗教章
ＢＳは宗教章・信仰奨励章を、ＧＳはカトリックスカウトバッジを取得することを奨励します。
今からでも取り組んでいただき、本大会の主日ミサの中で授与していただけることをお勧めします。

４．参加資格
参加資格は以下の条件を満たしていること。
・ICCS 又は ICCG に加盟する外国スカウト。
・ボーイスカウト日本連盟またはガールスカウト日本連盟に登録されているスカウト及び指導者。
・スカウトは隊長、団委員長、保護者の参加承認を受けていること。
・ボーイスカウトは CS 以上、ガールスカウトは Br 以上とする。
・その他、大会長が承認した者。

日本ボーイスカウト東京連盟日野第2団（高幡カトリックボーイスカウト）団情報

今回から各隊の活動を支援下さっている団委員の方々をご紹介してまいります。
まずは榎本団委員長から日野第２団の運営形態と団委員の役割をご説明いただきました。
「スカウト教育に当たっては、保護者をはじめ、教育、宗教、社会奉仕、体育、商工関係その他地域の関係者が育成団体となります。日野第2団においては、カトリック高幡教会が育成団体となります。育成団体は、奉仕の精神をもって、スカウト教育活動を維持し発展させるため、育成会を設立します。スカウトの教育活動及び訓練は基より、スカウト達が楽しく、目標に向かって活動できるように支援しているのが各隊指導者です。団委員は各隊の活動を支援し、活発化し、団の成長と活性化を行なう重要な組織です。」

保護者のみなさんにおかれましては、団委員の仕事内容や担当者の顔が分からないことも多いかと思います。
これを機会に少しでも興味を持っていただき、お声掛けいただければうれしいかぎりです。

野営行事の役割について

通常の活動では団行事の餅つき、焼きそば販売、クリスマス会のシュー、隊活動ではビーバーの流しソーメン、カブの夏キャンの食事作りなど食べ物主体の活動が目立ちますが、正式には「野営担当団の団委員」です。

日野２団の野営行事の役割は次の通りです。

1、施設・設備の維持管理
　スカウト広場・裏山の草刈り、枯木・倒木の除去と整備およびスカウトハウス・炊事場・備品の維持管理
2、隊活動支援と団行事
　夏キャン、ハイキングなどの隊活動の支援および、団行事の実施
3、日野市 BS・GS 連合協議会役員
　日野市から連協経由で依頼の行事に参加しています。（文化祭ほか）「手をつなごうこどもまつり」では実行委員として５～１１月まで会議に参加しています。
4、教会・幼稚園行事の支援
　教会の「さつき祭」の会場設営・焼きそば販売と光塩幼稚園「お泊り会」でのキャンプファイヤー支援
5、地区行事
　地区から依頼のラリー・５０Kハイク、東京・青梅マラソンの沿道警備支援など

上記の他、今夏、御殿場で開催される「第１０回カトリックスカウトキャンポリー」にも輸送担当スタッフとして参加しています。　現在、団委員は不足しています。野営行事はキャンプのみなどの単独行事毎の参加も可能ですので、皆様のご支援お待ちしています。

「安全管理」について

隊指導者はスカウトの年齢、知識、技能、体力に合った計画を立て、プログラムの実施をしています。また、活動中、隊指導者および団委員は安全に関して常に十分な配慮をしています。

この数年間、幸いなことに活動中に事故は起きていませんが、だからといって今後も起こらないとは限らず、いつ・どこで起こるかわかりません。そのために団は、各隊が提出した活動実施計画書をもとに安全管理について確認し、一歩進んだ視点で、「事故が起こるかもしれない」「事故が起きた場合にはどのような対応を行うか」について考え、危険（危機）と安全について隊指導者と団委員の間で事前に情報共有をします。

例えば昨年のカブ隊夏キャンプ。西沢渓谷ハイキングではコースの一部に道幅が狭い所、片側が崖の所がありましたので、その様子が分かるような写真を付けたハイキングコースマップを浜崎隊長に提案し、キャンプ期間中、宿舎でのプログラムのなかでスカウトに説明し、イメージしてもらう時間を設けて戴きました。

また、各隊救急箱の管理も安全管理の担当です。昨年は救急箱リストを改定しました。薬品・器具・衛生材料に区分し、各隊指導者に情報共有戴きました。また、各隊夏キャンプの実施場所、活動プログラム、予想される気象条件等を含む環境から判断し、キャンプ前に必要な薬品を購入し、補充をしています。